

「はしりもの・かわりだね」の実践で気を付けたい

## 「身近にひそむ有毒植物」

東北福祉大学 加藤幸男

身近にある植物の中には「触れるとかぶれる」「毒性がある」といった“要注意”なものがある。特に皮膚の弱い人や子供は、知らずに触ってしまうと肌トラブルの原因になることも。少しの知識があるだけで、安全に自然を楽しむことができる。身近な場所に生える有毒植物を知り、楽しく安全に「はしりもの・かわりだね」の活動をさせたいものである。

### ■ナガミヒナゲシ 【有毒成分：アルカロイド】

ポピーのような見た目のオレンジ色の花。1960年代に東京で見つかったから全国に広がった外来種。根から周囲の植物を枯らす成分まで出してしまう“生態系クラッシャー”。さらに、茎や葉を傷つけると出てくる黄色い汁に「アルカロイド系の毒」が含まれていて、触るとかぶれたり皮膚がただれることもある。素手で摘んだりせず、駆除する際も手袋必須。



### ■スイセン 【有毒成分：リコリン、ガラタミン、タゼチン】

全草に毒がある。切り花で使う場合は、汁液が付いた時は、流水でよく洗い流せば問題はない。ゴム手袋を着用するなど対策をすればより安全。

特に球根に毒成分を多く含み、誤って食べると食中毒を起こし、最悪の場合死に至る。平らでまっすぐに生える葉をニラと間違えることがある。また球根をノビルと間違えて食べてしまう例がある。



### ■ヒガンバナ(彼岸花) 【有毒成分：リコリン、ガラタミン】

全草に毒がある。肌が敏感な人が汁液により皮膚がただれることがある。スイセンと同じく、特に球根に毒成分を多く含み、誤って食べると食中毒を起こし最悪の場合死に至る。葉をニラと間違え、球根をノビルと間違えて食べてしまう例がある。

